

議事概要

電源開発株式会社

「(仮称) 西中国ウインドファーム事業に伴う計画段階環境配慮書」に係る
令和3年度 第1回 環境審議会

1. 日 時：令和3年11月15日（月）13時00分～14時30分
2. 場 所：周南市役所 1階 多目的室
3. 出席者：別紙配席図参照
4. 配付資料

資料1：(仮称) 西中国ウインドファーム事業 計画段階環境配慮書
(事前郵送)

資料2：上記 要約書（事前郵送）

資料3：環境審議会委員名簿

資料4：配席図

資料5：周南市環境審議会条例

資料6：意見書

5. 内容

事務局：本日の会議は、環境審議会委員35名中、会場出席18名、web参加4名、計22名の出席があり、会議の開催定数である過半数に達している。

会長の選出について、委員から意見が出なかったため、事務局案として、引き続き中尾委員に会長をお願いし、会長に選出された。

中尾会長より、副会長の指名が行われ、下記の通り副会長が決定した。

第1順位 4号委員 大山 政男

第2順位 1号委員 島津 幸男

第3順位 2号委員 野村 博

配付資料である資料1（仮称）西中国ウインドファーム事業 計画段階環境配慮書の緑色の冊子をもとに、電源開発及びアジア航測が説明を行い、その後質疑を受けた。

委員：今回示された配慮書は、作成段階で環境省や経済産業省の意見を聞いたのか。

電源開発：配慮書は、11月8日経済産業省に提出し、これから大臣の意見を聞いていくこととなる。その段階で、県や市の意見も聞きながら、次の方法書などを作成していくことになる。

委員：環境影響評価の成果品が出るまで、どのような手続きが必要なのか？

電源開発：配慮書の次に方法書で具体的に調査手法などを示したのち、準備書の段階で初めて、この計画が環境へ与える影響や、そのための具体的調査手法を示していく。この準備書で、環境への影響の大きさや、影響を回避する方法などを示すようになるので、成果品のイメージは、準備書になると思う。

委員：計画区域の中に鳥獣保護区が残っているがすべて外した方がいいのではないか。

電源開発：現時点では、最大限の計画を示しており、今後詳細に調査していきたい。

委員：低周波の調査は、環境省は環境評価項目から外しているが、この計画では、自主的に検討手法に入れている。もう少し説明してほしい。

電源開発：平成 29 年環境省の通達において、人の健康への影響は認められないとし、環境評価項目としては、参考項目となっている。しかし、地域の方々の関心が高いため、超低周波音については、計画段階配慮事項として選定した。

委員：この計画により、どのくらいの世帯の電力が賄えるのか、またどのくらいの二酸化炭素が削減できそうか。

電源開発：風力発電は、自然エネルギーを使用しているので、発電能力の 2～3 割程度で一般的に計算される。4300kw の発電機 1 基で約 2000 世帯、33 基では、ほぼ周南市の人口をカバーできると期待される。二酸化炭素の削減量については、今後調査して示していきたい。

委員：資料を見ると、それほど風が強くない地域なのに、鳥獣保護区やブナ林の生息地になっているところが計画区域に入っている。今後検討、配慮をお願いしたい。

環境影響評価法の手続きを、今後どういう風に進めていくが分かりにくいので、行政としてどのような段階を踏んでいくのかを示してほしい。

今後の調査の状況を極力公開してほしい。

電源開発：今後しっかりと示しながら、進めていきたい。風のデータは、実際に現地に風力計を設置して測定したものであるため、資料のデータと異なる場合もある。

事務局：現段階では配慮書であり、今後、方法書、準備書といった流れとなる。随時環境審議会を開催し、会議を公開し、しっかりと検討した結果を県に意見していきたい。資料の縦覧は、11 月 9 日から 12 月 8 日まで行っている。

委員：八代の鶴は、周南市へ来るときのルートがまだわかっていない。調査をして分かるものなのかわからないが、今後どこまで調査をしていくのか。

電源開発：鶴だけでなく、渡り鳥についても今後しっかりと検討を行い、方法書で示していきたい。

委員：鹿野地域の住民には、早い時期から計画の説明をしているが、住民の気持ちを、企業として、どのように受け止めているか。

電源開発：これまでも、鹿野地区では何度か説明をしてきたが、地域のメリットの意見としては、地域振興、林業との共存、観光資源として活用などの意見があった。

デメリットとしては騒音、開発による土砂災害があった。これらの意見を十分踏まえ、今後の手続きだけに限らず、地域の皆さんには十分に説明していきたい。

会長：風力発電所からの騒音の発生する仕組みを説明してほしい。

騒音に関して、敷地境界という概念はあるのか。

風力発電機にどこまで人は安全に近づいていけるのか。

電源開発：騒音発生としては、ブレードが風を切る風切り音、発電機が回る時の機械音、最近の機種ではなくなってきたが、ブレードを回転させるときの機械音がある。

山の中なので、騒音の境界線という考え方はない。音のデータは地形などにより変わるため、予測評価を行い、方法書で示していきたい。

風力発電の近くへは、真下まで行くことができるので、観光資源などとして活用可能である。

会長：電源開発株式会社は全国で計画をしているが、周南市と類似例はないのか。今までの実績を踏まえた環境保全対策があれば示してほしい。

電源開発：北海道道南の山中に計画中のものが、周南市と類似している。山の中で、民家から離れているため、騒音等の問題は小さいが、鳥類や、植物、土砂災害の問題に関心が高いと考えている。このような問題にきちんと対応していくことが重要と考えている。

委員：岩国でも説明会があったと新聞記事で読んだが、2km 圏内に民家が 135 戸あり、騒音などの問題も想定以上の懸念が生じる可能性があると思われる。現在最大 33 基で計画されているが、今後検討を進めるにあたり、どこまで減らすことができるのか、見通しをお聞きしたい。

電源開発：皆さんの意見を聞きながら、環境への影響を避けるために、基数の減少が必要と判断されれば、減らすことも考えられる。

委員：道路の整備や、土砂の処分などはどのように考えているか。

電源開発：配慮書の段階では、どのような道路をつくるとか、具体的な計画はないので、今後の準備書などの中で検討していきたい。土砂の発生量も少なくなるように検討していく。

会長：森林を伐採すると CO₂ の吸収量が減ることになるが、どのように対応していくのか。

電源開発：風力発電 1 基当たり、2000～3000m² の面積が必要となるため、その部分の伐採が必要になる。植栽の復帰などもしっかり考えていきたい。

以上で、質問がなくなり終了した。

会長：今回は、計画段階環境配慮書に対する、市への答申を取りまとめる必要があることから、11/25 までに「意見書」を事務局まで提出してほしい。提出された意見は、事務局によって取りまとめたのち、会長権限により、市へ答申したいと考えているが、意義はないか(異議なし)。

では、後ほど意見を取りまとめたのち、市へ答申する。